

家庭教育通信

1年生になったら 6

第66号 令和元年5月11日発行

～来年は小学生～

年長になると「来年は小学生、どんな準備をしたらいいの」という会話が自然と増えてくると思います。今のうちにできることをやっておきたい親心、でも何をすれば？・・・と不安が増す時期です。

そこで、小学校に入学するまでにじっくりゆっくり家庭で育てておきたい「根っこの力」について今回はお話ししましょう。

①やる気

今、我が子が何かに夢中になっている姿によく目を向けてみてください。

好きなことに没頭するなかで、こどもはそれぞれ個性的に考えて工夫する力を自らの中に伸ばしていきます。そこを見とって、さりげなく、「ほめる」ことが大切です。

「すごいね、そんなこと考えたんだ!」。見守っている親の愛を感じることで、こどもの安心感と「やる気」を育てます。これは学校での勉強場面に必ず生きる「根っこの力」です。

②聴く・訊く力

例えば絵本の読み聞かせにじっと耳をすます「聴く力」、あるいは、自分にわからないことは「教えて!」と言える小さな勇気「訊く(たずねる)力」、このような「きく力」は、小学校での学習にとっても役立ちます。よくきいて自ら考える習慣は、将来の「思考力」につながります。

小学校の勉強を先取りすることは「ぼく知ってるもん!」という慢心となって「きく力」を弱めかねません。

就学前に大切なことは、相手の話に耳を傾け、わからないことは素直に質問する対等なコミュニケーションの積み重ねです。絵本の読み聞かせは字が読めるようになってからでもお勧めですよ。

③思いやりの心

例えば隣の子が消しゴムを忘れて困っていたらさりげなく貸す子になってほしいと親は思います。

「1年生になったら何でも自分でやらないと!」と張り切りすぎず、困ったら誰かに頼っていいし、また頼られてもいいのです。助け合って声かけ合っていこう!の心をもつことが大切です。

いかがでしたか。今回の3つの力を意識することで、親も子も「保幼小接続期」を、楽しく期待を持って乗り越えられると思います。

地域教育課社会教育担当

Tel (3647) 9676